

あうみネット



淡海の市民活動・ネットワーク情報誌
 Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi
 ●発行日/2008年12月1日 ●発行所/(財)淡海文化振興財団

No.
66
 2008年12月・
 2009年1月号



CONTENTS

特集●淡海とぴっくす ②

NPOを就労の場に! ~NPOで働くことを選べる社会~



暮らし支えあいの 実践成功モデル講演会

日時●12月13日(土) 13:30~16:00
 場所●近江八幡市いきいきふれあいセンター
 参加費●無料/ワンコイン交流会
 (15:00~16:00) 参加者は500円
 連絡先●みんなの居場所をつくる会&
 おうみ未来塾nukunuku
 TEL:090-7091-8376 (土田) 18:00以降
 TEL:090-1582-2096 (神門)

高齢化率40%以上の和歌山県田辺市本宮町で、「NPO法人本宮あすなろ会」の高齢者たちが、まちを元気にさせました。まちの「困った」を解決するうちに、大きなコミュニティービジネスに成長。理事長、九鬼聖城氏の講演です。



▲近江八幡市のさろん「間」秋祭りの風景

2008びわ湖プロジェクトフォーラム びわ湖の森の健康診断 キキダス報告会

日時●2月7日(土) 13:30~16:30
 場所●東近江市役所別館
 入場料●無料
 連絡先●びわ湖の森健康診断キキダス実行委員会
 TEL:090-7104-1197 (山口)

東近江から始まったびわ湖の森の健康診断。森林の「今」を報告するフォーラムです。また、びわ湖プロジェクトでは、東近江で持続可能な地域モデルの提案を目指して様々な取組を応援中!それらの紹介もお見逃しなく!



あうみ市民事業創出支援プロジェクト 第4回協働サロン・ NPO×NPO “はじめての一步”

- ◆テーマ: 森の活用とエコツーリズム
 安心安全で住みよい地域をつくる一環として、地産地消や森の活用とエコツーリズムが今回のテーマです。それぞれが理解し協力することで新たな事業が広がる可能性をもっていることから、そのきっかけづくりを提案します。
- ◆日時: 2月初旬頃 14:00~17:00
- ◆参加費: ¥500 (お一人様)
- ◆場所: 未定
- ◆内容: 今回は交流をメインと考えております。ワークショップの時間では活動アピールのお時間を設けておりますので、チラシ・名刺などお持ち下さい。
- ◆対象: 他のNPO・市民活動団体と協働してみたいと思う方なら、どなたでも参加できます。
- ◆申し込み方法: ホームページからEメールで申し込みもしくはチラシ裏面の申込用紙のFAXにてのお申し込みに限らせて頂きます。(詳しいことが決まり次第、ホームページに掲載します)

「あうみNPO活動基金」へのご 寄付ありがとうございました。

9月27日、生活協同組合コープしが様から「あうみNPO活動基金」に50万円のご寄付をいただきました。滋賀県内のNPO活動支援に大いに役立させていただきました。誠にありがとうございました。

滋賀県立男女共同参画センター事業紹介 女性のチャレンジ応援講演会

林文字さん講演会『一生懸命って素敵なこと~すべての人にチャンスはある~』
 ◆日時: 1月17日(土) 13:10~16:45
 ◆会場: 滋賀県立男女共同参画センター大ホール
 ◆申込締切: 1月10日(土)
 ◆無料託児: 参加申込みの際に予約してください。託児は1月15日まで受け付けます。
 ◆申込・問い合わせ先: 滋賀県立男女共同参画センター
 TEL: 0748-37-3751 FAX: 0748-37-5770
 E-mail: g-net@mx.biwa.ne.jp
 URL: <http://www.pref.shiga.jp/c/g-net/>

あうみ未来塾10周年記念大交流会を開催します! テーマ「地域と生きる人々と共に」 ~学びと実践~

- ◆日時: 1月17日(土) 11:00~16:30
- ◆場所: 栗東芸術文化会館さきら 小ホール
- ◆日程
 11:00【第1部】ポスターセッション
 セッションテーマ: ①環境/②福祉/③まちづくり/④教育・子育て
 【ランチタイム】
 13:30【第2部】交流シンポジウム
 基調講演 横石知二氏
 (株)いどり代表取締役 副社長

- ◆パネルディスカッション「人・もの・心をつなぎ、地域に活かす」
- コーディネーター 藤井絢子氏 (あうみ未来塾運営委員)
- パネラー
 横石知二氏 (株)いどり代表取締役 副社長
 谷口隆一氏 (伊吹の源流を考える会 代表)
 松田直子氏 (株)Hibana 代表取締役
 溝口 弘氏 (株)なんてん共働サービス 取締役会長
- ◆参加費: 第1部から参加 1,500円
 第2部のみ参加 1,000円

あうみ未来塾10周年記念事業各地域会の活動紹介

あうみ未来塾の卒業生が、10年間の縦のつながりをつくり、情報交換の場として、湖東、湖北、あうみ南部、大津・湖西地域で地域会をつくりました。各地域会では、それぞれの地域の市民活動をされている方々ともつながりを深めていき、滋賀の市民活動をもっと元気にしていきたいと思っています。

各地域会が進める地域プロジェクトをご紹介します。

<湖東地域会>

今回の地域プロジェクトの各種イベントは着地点ではなく、ここをSTART地点としてこれから何をやるか、発案の場にしたいと考えています。これを機に、未来塾卒業生・在塾生が中心になって湖東ブロックの交流サロンを作り、それを核にして地域の市民活動家集団で「みらい交流会」が創られればと思っています。

<湖北地域会>

未来にむけて、「各地域で、あうみ未来塾の卒業生とそのつながりを活かした、地域プロデューサーたちが集う自主的な場が創れたら良

いよね」というイメージを持って、湖北地域会(塾生ミーティング)を開催しました。まずは、お茶とお菓子でもつまみながら、自己紹介からはじめています。地域の市民活動家の方々との交流もしていきます。

<あうみ南部地域会>

湖南・甲賀地域(草津市・守山市・栗東市・野洲市・湖南市・甲賀市)に住む未来塾卒業生の数は、なんと60名近くにのぼります。しかし、この近隣地域でさえ、未来塾生がどこでどんな活躍をしているのか十分に知らない・顔が見えない、というのが実感です。そこで、私たち湖南・甲賀地域の未来塾卒業生の情報交流や「期」を超えたつながりづくりの第一歩として、ミーティングを開催しています。

<大津・湖西地域会>

「大津、湖西」グループでは、未来塾の卒業生の現況報告、地域で直面する課題等を出し合い、次への進化を模索する会を開催しています。11月には、我々の行動への思いを日高敏隆塾長を囲んで語り合いました。

第6回(2008年)「あうみNPO活動基金」助成団体成果発表会のご案内

NPOの経営基盤強化を目的に実施している「あうみNPO活動基金」助成を受けている20団体が、助成事業の成果を発表します。みなさんの活動の参考になると思いますので、ぜひお越しください。
 ◆開催日: 2月14日(土) ◆会場: 県民交流センター(ピアザ淡海) 207会議室
 ※入場無料。詳しい日程等は、後日、ホームページに掲載します。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■<http://www.ohmi-net.com> ■E-mail: office@ohmi-net.com

開館時間/9:00~17:00 水曜日(祝日以外)9:00~21:00 休館日/月曜日、祝日の翌日

■年末年始の休館は右記の期間です。12月28日(日)~1月5日(月)良い年末年始をお過ごしください。

●淡海ネットワークセンターの情報誌「あうみネット」は次のところに配布しています。
 県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さきら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域振興局、県情報室など

編集後記

「八日市冒険遊び場」からの帰り道、あうみネットゆかりのAさんとCAPのKさんのことを思い出した。八日市でのお二人の活動が繋がっている気がした。まちづくりは土作り、いつかどこかで花を咲かせるのだと思った。(あうみネットサポーター 石川悠子)

「若さっていいな…」この年齢になって、しみじみ、そう思いました。そして、世代間を越えた世界を目の当たりにした。これが、今回の取材活動(同行パトロール)で得た最高の収穫ではなかったかと思えます。(あうみネットサポーター 荒木威)

うぐいすの移動支援活動で一番の課題は運転手の確保。8人でせっかくなる2台の車両をフル稼働できないし、本来ニーズの多い土日の活動もできない…。ひとつやっつろやないか!という人、ぜひ鳩の街へ名乗りをあげて!(あうみネットサポーター 松田達也)

■NPOさぽーとぽけっと ①

地域の居場所
 コミュニティ・サロンの運営
 ~ボランティアや職員が安心して
 活動できるようにしよう 保険の話~

■市民団体活動紹介 ⑤

NPOのわっ
 ●八日市冒険遊び場
 (八日市地区まちづくり協議会)
 ●Bridge(ブリッジ)
 ●特定非営利活動法人 鳩の街

■あうみネット★

INFORMATION ⑦
 12月・1月

NPOを就労の場に! ～NPOで働くことを選べる社会～

退職した人がこれまでのキャリアと経験を活かせる場を求めて、また子育て中のお母さんが柔軟に能力を発揮できる場として、若者が社会への思いを実現する場としてなど、NPOを「働く場」に選ぶ人が少しずつ増えてきています。しかし、生計を維持するという面では厳しい現実もあるようです。

今回は、労働経済学が専門で、独立行政法人労働政策研究・研修機構による「NPO活動と就業に関する実態調査」に参加された同志社大学の浦坂純子さんにNPO活動と「働く場」についてお聞きしました。



浦坂純子さん●プロフィール
同志社大学社会学部准教授。大阪府堺市生まれ。1998年大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。学部改組により2005年から現職。専門は労働経済学。主な共著書に『教育が危ない3 「本当の生きる力」を与える教育とは』（日本経済新聞社）、『シリーズ：現代経済研究22 教育改革の経済学』（日本経済新聞社）など。NPOに関しては、一貫して職場やキャリア形成の場として機能する可能性を模索している。

■NPOが「働く場」になってきている現状についてお聞かせください。
浦坂 これまで、NPO活動はボランティア性が高く、「働く」というイメージはあまりありませんでした。しかし、この十年ほどでNPOが成熟し、社会の中でNPOの担う役割が大きくなってきました。NPO活動に集中したい人が専従となり、またNPOが手がける事業も充実してきて、人を雇用する、非常勤の人を常勤にする、という状況にもなってきています。
■この十年くらいで、社会がNPOに求めている責任が高まり、NPOが「働く場」となる状況を生んできたのですね。
浦坂 NPOの社会的責任と継続性のためにも、NPOで働く人が活動に集中でき、なおかつ生活もできる

体制が、社会にとってもNPOにとっても必要になってきています。
■NPOを本業としているのは、男性と女性のどちらが多いでしょう？
浦坂 NPOに聞きとり調査をしたとき、男性の「寿退職」という言葉を聞きました。NPOで働く男性が、結婚したり、子どもが生まれたりという人生の節目で、安定した収入が得られる職場へ移っていくということなんです。男性の場合は、民間企業での労働条件が相対的に恵まれているため、NPOを本業としている人は少ないようです。
■男性の「寿退職」は、初めて聞きました。
浦坂 NPOからの収入に頼っているのは女性の方が多いようです。女性には、男性と比較すると民間企業で

の労働条件が厳しいこともあり、対価だけでなく自分の力を発揮できるNPOでの仕事を選択肢になりやすいと考えられます。
■NPOで働く人の収入はどれくらいなのですか？
浦坂 NPOでの働き方は多様で、一概にはいえませんが、私の参加した調査の結果からは、事務局長などで高い能力を発揮している人でも平均年収は二百〜三百万円です。また一方で、心身にハンディキャップがある方の柔軟な職場になっている場合もあります。さまざまな人が働ける多様な職場、社会とのつながりの場を提供できるのがNPOという存在だと思います。このようなNPOの労働環境をもっと良くする必要があります。
■NPOの労働環境が良くなるために、何が必要だとお考えですか？
浦坂 NPO活動への社会全体の評価が高まる必要だと感じます。NPOの組織運営には、さまざまな能力が必要です。事業受託の為に提出する各種書類の作成ひとつにしても、表現力や効果的な書き方、また社会の変化に対応した事業を構想する力が求められます。経営面では、

(次ページへ)

お金で世界を変える？

「世界がもし100人の村だったら」という本を読まれた方もあるかと思います。ミリオンセラーとなったこの本を出版された池田香代子さん（作家・翻訳家）は印税7000万円余りで「100人村基金」を設立し、日本在留の難民支援をはじめとして平和的な活動などに寄付をされました。

「いつか財団を作り、少し人的・金銭的サポートがあれば、飛躍的に成長する女性に対し奨学金を出したい」という夢を私は持っています。ビル・ゲイツやウォーレン・バフェットのように巨万の富を得て財団を作ることには無理かもしれませんが、いつか私もと思っています。でも、まだまだ夢の段階です。自分で財団をわざわざ作ることも小額でも自分の基金（ファンド）を作ることができます。大阪コミュニティ財団では自分の基金を設けるための寄付額はいくらからでも可能です。個々の基金の額は、2億円を超えるものから数万円まで幅広く、平成3年設立以来の総計は807

件、助成金累計額は4億2,687万円。基金寄附金額・基金数は毎年確実に伸びています。さらに、自然保全、風車建設などへの直接出資、市民からの出資金でNPO等への融資を行うNPOバンクづくり、インターネットサイトを通じての寄附など、最近では意思あるお金の使い方の選択肢が増えています。

また、買い物の際にも選び方を変えることで、地域社会を元気にすることができます。11月29日（土）に開催したフォーラム『買い物も市民活動？～私の“選び”が社会を変える！』でも、企業や商店街、学校、市民活動団体などの協働を通じて、おとなも子どもも買い物で地域づくりに参加できる事例発表や交流コーナーがありました。そろそろ年末助け合いの各種取り組みが始まります。去年とは少し違う「気づき」から社会を変える方法を考えてみてはどうでしょうか。

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

NPO SUPPORT POCKET

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

●NPOさぽーとぽけっと●

地域の居場所、コミュニティ・サロンの運営 ～ボランティアや職員が安心して活動できるようにしよう 保険の話～

地域の人と人をつなぎ、地域全体をいきいきとさせる、地域の居場所やコミュニティ・サロン。今回は、ボランティアや職員が安心して活動できるように、ボランティア保険や社会保険についてお伝えします。



●ボランティアに対する保険
調理場で刃物や熱湯を扱う場合、怖いのはケガや火傷。また、活動に通う道中に事故に合うこともあります。ボランティアが安心して活動するために、全国社会福祉協議会が一括して保険会社と締結するボランティア活動保険があります。

補償の対象者は、ボランティア個人、ボランティアの監督責任者（未成年者の場合、その親権者）、NPO法人（NPO法人に所属するボランティアの場合、NPO法人が賠償責任を負う場合があるため、賠償事故のみ補償対象となる）です。

対象となるボランティア活動は、日本国内の「自発的な意志により他人や社会に貢献するボランティア活動」で、①～③いずれかに該当する活動です。①グループの会則に則り企画、立案された活動。②社会福祉協議会に届け出た活動。③社会福祉協議会に委嘱された活動。

保険料は、一人に一口の加入で、補償金額によって、Aプラン260円、Bプラン420円、Cプラン590円から選びます。

詳しくは、お近くの社会福祉協議会へ問い合わせるか、「ふくしの保険」ホームページ：<http://www.fukushihoken.co.jp/>をご覧ください。

●職員を雇った場合の社会保険
・労働保険について
給料を受けて働く人が一人でもいる場合、事業主は労働保険への加入が義務づけられています（労働保険は、労災保険と雇用保険を総称したものです）。労災保険は、職員が常勤非常勤にかかわらず、必ず加入しなければいけません。雇用保険は、次の条件を満たす人がいる場合、加入しなければいけません。①1週間の所定労働時間が20時間以上である。②1年以上雇用される見込みがある。

詳しくは、労働基準監督署、ハローワークへ問い合わせるか、滋賀労働局ホームページ：<http://www.shiga-roudou.go.jp/>をご覧ください。（おうみネット54号にも詳しく紹介しております）

・健康保険、厚生年金保険、介護保険について
次の①②いずれかに該当する事業所は加入が義務づけられています。①常時5人以上の正規職員を雇用する個人の事業所。②常時1人以上の正規職員を雇用する法人の事業所。また、職員が非常勤であっても、次の条件を満たす場合、被保険者となります。①1日または1週間の所定労働時間が正規職員のおおむね4分の3以上であること。②1か月の所定労働日数が正規職員のおおむね4分の3以上であること。

詳しくは、社会保険事務所へ問い合わせるか、社会保険庁のホームページ：<http://www.sia.go.jp/>をご覧ください。（おうみネット53号にも詳しく紹介しております）

地域にとって大切な居場所やコミュニティ・サロンの運営には、それを支える人たちに安心して活動してもらえるよう、運営側もしっかりとサポートすることが大切です。

●特定非営利活動法人子どもネットワークセンター天気村●

●1999年4月設立
●草津市東草津1-1-15
●TEL：077-564-7868
●E-mail：nt-tenki@biwako.jp
●URL：http://biwako.ne.jp/nt-tenki/



代表・山田貴子さんと事務局長・辻充子さん▶

■事業内容

子どもの野外体験・地域交流として「こんべいとう自然保育園」、「こんべいとうクラブ」を運営しています。草津市から草津ファミリーサポートセンター事業、つどいの広場事業を受託、守山市小津、玉津児童クラブの指定管理者などを通して地域に子どもの成長を見守る仕組みを作っています。障がい児と親へのサポートとして親の交流会や勉強会なども行っています。

■「天気村」が求める人

まず活動や団体の思いを理解するためにもボランティアとして最低2年くらい参加していただきたいと思ひます。NPOで働くとは、自分の給料は事業の運営によって自分で稼ぐという、実行力と技術と創造力を持っていることが必要です。多くの人や団体とつながり、活動目的への

	主な収入	人件費	スタッフ数
2000年度	・保育事業、クラブ事業 ・文部科学省子ども情報センター事業 ・社会福祉・医療事業団子育て基金 約900万円	約700万円 (収入の70%)	常勤2人 非常勤3人
2005年度	・保育事業、クラブ事業 ・草津市ファミリーサポートセンター事業 ・りっとう山荘利用活用事業 ・おうみNPO活動助成 約1,500万円	約900万円 (収入の60%)	常勤4人 非常勤4人
2007年度	・保育事業、クラブ事業 ・草津市ファミリーサポートセンター事業 ・県民文化チャレンジ ・おうみNPO活動助成 約1,700万円	約900万円 (収入の50%)	常勤3人 非常勤5人

共感を広めながら進める活動は、やりがいと責任があります。また変化し続ける子ども達を取り巻く環境に柔軟に対応し、先駆的な活動を行えることもNPOの魅力です。

●特定非営利活動法人あさがお●

●2005年2月設立
●大津市浜大津3-2-4
●TEL：077-522-0799
●E-mail：asagao.npo@image.ocn.ne.jp
●URL：http://www1.ocn.ne.jp/n-asagao/



代表・鎌田昭二郎さん(右)と所長・尾崎史さん(左)▶

■事業内容

高齢者・障がい者などを権利侵害から守るために成年後見制度が2000年にできました。契約によって成り立つ社会生活において、判断能力が十分でない人は不利益を被る可能性があります。誰もが安心して適切なサービスを受けられる権利を守ることを目的に、相談事業、法人後見受任事業、成年後見制度普及などの事業を行っています。

■「あさがお」が求める人

看護師やソーシャルワーカーなどの経験を持つ相談員も事務局で経営を支えるスタッフも、「人の生活を引き受ける仕事」に責任と思ひを持って活動しています。人生の様々な価値観を受容できる方、チームで支援するので対人感覚のバランスの良い方と共に働きたいです。

	主な収入	人件費	スタッフ数
2005年度	・調査・研究(厚生労働省老人保健健康増進等事業) ・大津市基幹型老人介護支援センター事業受託 ・会費収入(会員142) 約2,000万円	約1,200万円 収入の約50%	常勤2人 非常勤1人 アルバイト1人
2006年度	・調査・研究(厚生労働省老人保健健康増進等事業) ・滋賀県高齢者成年後見支援センター事業受託 ・大津市高齢者権利擁護事業受託 ・おうみNPO活動助成金 ・法定後見報酬 ・会費収入(会員275) 約2,500万円	約1,600万円 収入の約65%	常勤3人 非常勤2人 アルバイト1人
2007年度	・滋賀県高齢者成年後見支援センター事業受託 ・大津市高齢者権利擁護事業受託 ・おうみNPO活動助成金 ・法定後見報酬 ・会費収入(会員202) 約3,300万円	約2,300万円 収入の約70%	常勤3人 非常勤3人 アルバイト1人

●特定非営利活動法人小江戸彦根●

2007年5月設立
事務所：彦根市金亀町7-5
ひこね市民活動センター内
TEL：080-1461-4132
E-mail：koedohikone@gmail.com
URL：http://koedohikone.sakura.ne.jp/



事務局・団朋希さん▶

■事業内容

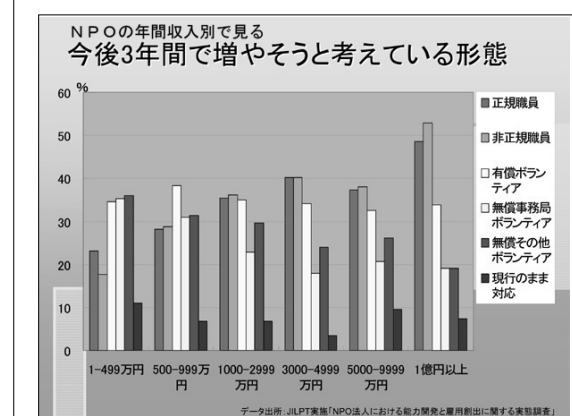
彦根城博物館に残されていた屋形船を再現し、彦根城の良さをお堀から遊覧して知ってもらうことを目的にお堀で屋形船を運航したり、彦根城400年祭実行委員会から始まったボランティアグループ「ひこねを盛り上げ隊」の連絡調整などを行っています。まちづくり推進事業として、ひこね市民活動センターの運営、月1回の情報交換会を行い彦根にさま

	主な収入	人件費	スタッフ数
2007年度	・屋形船乗船料 ・協賛金 約1,600万円	約500万円 収入の約30%	常勤1人 船頭15人程度 券売アルバイト数人

ざまな人や団体のネットワークを広げるお手伝いをしています。

■NPOで働くこと

彦根市に暮らして、彦根のまちに関わりたいたいと思っていたところ、事務局の募集がありました。ひこね市民活動センターの情報交換会にも出ていたので、屋形船事業についても聞いており、まちづくりや観光振興にも役立ててほしいと思ひました。何とか生活できる程度にはいただいています。この仕事で、人とのつながりが広がっていき、まちに関わる経験が財産だと思ひています。



浦坂 活動通信などを届けることはもちろん大切ですが、直接顔を合わせることも必要です。NPO側も情報を発信して企業へ届けていくことが必要です。浦坂 活動通信などを届けることはもちろん大切ですが、直接顔を合わせることも必要です。浦坂 活動通信などを届けることはもちろん大切ですが、直接顔を合わせることも必要です。

浦坂 NPOで働く人が、活動経験を通して、スキルや能力、社会性を高め、次のステージで活躍できる力を得られるような人材育成の場になれば、社会全体のNPO活動への理解と評価がさらに広がると思ひます。日本では、一般的にレールを離れると戻れないといわれますが、人生の一期をNPO活動に参加し、社会の課題に取り組むという選択肢が認められる社会が、本当に豊かな社会といえるのではないのでしょうか。

助成金や委託事業など不安定な収入に対するリスク管理能力など、組織運営を通して体得される能力は、企業が求める能力と合致しています。NPOがキャリア形成の場として、もっと評価されてしかるべきだと思います。浦坂 しかし、企業で働く人の多くが、地域活動や余暇活動などへの参加が難しく、NPOを知る機会がほとんどないのが現状です。接点がないから分からない、そこに壁がある

浦坂 活動通信などを届けることはもちろん大切ですが、直接顔を合わせることも必要です。NPO側も情報を発信して企業へ届けていくことが必要です。浦坂 活動通信などを届けることはもちろん大切ですが、直接顔を合わせることも必要です。

浦坂 NPOで活動する人が、NPOとの出会いが少ない人たちと積極的に触れ合い、自分の言葉で話をすることで、多くの情報が伝わります。また、活動を知って参加する人を増やす機会にもなり、それがNPOの社会全体における認知度を高め、評価につながっていくと思ひます。

浦坂 NPOでは、立ち上げ時の中心メンバーから次の世代への交代が難しいと聞きます。人を育てるという意識を持つことで、NPOにとっても世代交代が容易になり、活動継続につながっていくのではないのでしょうか。

長い間暮らし続けた自宅に住み続けたい。老いても障がいを持ったとしても、友人や知り合いのいる場所で暮らし続けたいというの誰が思う願いです。しかし住み続けたいと願っても買物や病院、市役所などに思うように行けない所もあります。そのような人がやむを得ず交通の便利な駅前マンションなどに引っ越されることが多々あります。湖南市も毎年そうした転居が多



●移動支援うぐいすの活動風景

ずっと住み続けられる街づくりを目指して
市民が担う移動支援事業

「鳩の街」は誕生しました。きっかけは二〇〇六年に行われた湖南市の高齢者保健福祉ニーズ調査でした。そこでのアンケートの困りごとの一位は「移動が困難」という項目でした。家族や身内に頼るのも限界があるし、タクシードもそう度々は使えない。バスだって停留所までが行きづらい、などの声があったそうです。そんな困りごとに、市民で互いに支え合える仕組みづくりを目指して「鳩の街プロジェクト」が生まれました。このプロジェクトは湖南市民、社協、行政、介護事業者

らが集まったものですが、そこが母体となり実働部隊として生まれたのが「鳩の街」です。拠点は平和堂石部店の中。平和堂の社員も理事になるということで便宜を図って来ています。そんな鳩の街の第一の事業は移動支援センター「うぐいす」。道路運送法七十九条に基づくボランティア輸送としての福祉有償運送や湖南市から委託されている外出支援事業に取り組みしています。二〇〇八年は八月まで利用者数八百六十名。これを八名の運転手で担っています。「これがあるからホント助かるわあ」といった高齢者の声を励みに毎日街を駆け回っています。



特定非営利活動法人鳩の街
代表●麻生 喬之
設立●2006年 会員数●25名
連絡先●湖南市石部中央6-1-31平和堂石部店内2階
TEL: 0748-77-5547 移動支援センターうぐいす
TEL: 0748-77-5546 つどいの広場つばめ
FAX: 0748-77-5549
URL: http://www4.ocn.ne.jp/hato/index.htm

●市民交流スペースがらっとは誰でもミーティングなどに使えます。

「いまだきの若者は」。今回は、古今東西、永遠のテーマともいえるべきこのことを、「死語」にした若者たちの物語を紹介いたします。その名は、「Bridge(ブリッジ)」。草津市にキャンパスを置く立命館大学の学生さんによる防犯ボランティアのグループです。JR南草津駅周辺は、県内有数の犯罪多発地域です。学生の多くが、この駅から降り降りし、あ

学生が、地域と「協働」で防犯活動
願いは、「地域との架け橋に…」

行動を起こしました。グループ結成は平成十七年。当初は、二回生が中心の十三名。一時の停滞期を乗り越え、今では三十名近くに成長しました。活動は、地元自治会の皆さんとの合同パトロールが主体。そのほか、大学構内での防犯啓発、駅周辺での自転車の整頓や町の清掃、地域安全マップの作成などなど、「割れ窓理論」を地味に活動の積み重ねが、「安全なまちづくり」に大きく貢献しています。つい先日開催された県民防犯大会では、これまでの功績が評価され、「安全なま



●いざ、出発!!!リーダー(自治会長さん)から一言。情報の交換が、一体化の決め手!

ちづくり大賞(県知事賞)を授与しました。地域の皆さんをはじめ、活動を支援する県南振興局、警察等関係者も学生の熱い想いと若いエネルギーに拍手を惜しみません。地域との「協働」活動が「架け橋」となり、世代間の永遠のテーマを「死語」にした瞬間です。代表の堀祐士さんは、今後の抱負を「もっと活動を強化して、地域との距離を近づめたい」「もっと活動の幅を広げて、地域との関係を深めたい」と力強く語ってくれました。そこには、「防犯」という次元を超えて、「地域とともにある大学」への構築に向けた、熱い視線が感じられました。(おうみネットサポーター 荒木威)



●成果が知事賞に…知事さんを囲んで、「ハイ、チーズ!」努力が報われた一瞬です。(右端・堀 代表)

「Bridge(ブリッジ)」(立命館大学 学友会)
代表●堀祐士
設立●2005年
会員●29名
連絡先●草津市野路東1丁目1-1
立命館大学BKC内
(連絡先は淡海ネットワークセンターにお問合せください)

遊びにかけては、子どもは天才! 子どもたちが外遊びするまちづくり… 月二回、朝十時から日が暮れるまで、東近江市役所近くの大木公園で開かれている「八日市冒険遊び場」。親と一緒に子どもたちだけでも、誰でも参加できます。無料。雨天雪天でも開催! 子どもたちがやりたいことをやることを大切にしているので「危ないから汚いからダメ」はなし! ドラム缶のお風呂を沸かす男の子、泥をズボンの上のにつけている小さな子、のこぎりを使う女の子たち: 思い思いに、こころざしを自由に遊んでいます。「外で遊ぶ子どもたちを見かけない」

「せっかくの公園が生かされてない」…まちづくり再考のためのまち歩き後に。出された感想でした。子どもたちが自由に遊べる町にしようと、八日市地区まちづくり協議会の事業として「冒険遊び場」づくりプロジェクトが発足。公園のご近所に声をかけたり、広報したり…。市民の共感のもとに実現されてきました。自分でひらめく、やってみる、失敗や



●最初は親から離れられなかった子ども今では屋根に上るほどに…。お母さんも見てられるようになりました。

小さなケガや痛みから危険と勇気を覚える、見守る大人を陰で発した自信、大切な思い出。生きていくために必要なことが遊びの中には自然な形で学べる。そんな環境を作ってあげられる大人と町。とっても素敵!でした。詳しい情報はホームページでも見ていただけます。「八日市冒険遊び場」で検索してください。(おうみネットサポーター 石川悠子)

八日市地区
まちづくり協議会
代表●大野義忠
設立●2006年
連絡先●東近江市八日市町9-20
(八日市コミュニティセンター内)
TEL: 0748-22-1365
URL: http://park.geocities.jp/yokaichipark/



●とうとうお湯が沸きました。たぐいまる浴中。

NPOのわっ WA

地域や社会を良くしていきたいとがんばっている市民活動・NPOを紹介します。興味を持たれた団体に連絡してみませんか?

おうみネットを一緒に作りませんか?
おうみネットサポーターを随時募集しています。興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。



●八日市冒険遊び場で泥んこ遊びに熱中する砂場では、実はおとうさんが観戦?中。見てもらえる嬉しいね。

●Bridgeの大切な活動のバトロールを終えて、各班から結果報告。「振り返り」が、明日に繋がります。